

# エコアクション21環境経営レポート

(2019年4月～2020年3月活動実績書)



- 1 組織の概要
- 2 対象範囲、レポートの対象期間及び発行日
- 3 環境経営方針
- 4 環境目標（2019年から2021年）
- 5 環境目標に対する実績
- 6 環境活動計画の取組結果と評価、次年度の取組内容
- 7 環境関連法規の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟の有無
- 8 代表者による全体評価と見直しの結果

作成:2020年5月29日

トヨタ電機株式会社

## <1>組織の概要

(1) 名称及び代表者名

トヨシマ電機株式会社  
代表取締役社長 坂本喜則

(2) 所在地

本社 愛知県小牧市若草町86番地  
ホームページアドレス <https://www.toyoshimadenki.co.jp/>

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者 取締役企画室室長 国定明彦 TEL:0568-75-2246  
担当者 取締役総務部部長 山田修一 TEL:0568-75-2165

(4) 事業内容

電子部品の実装設計  
クリーンブース・クリーンルームの設計・施工  
建設業(大工、電気工事、管工事、内装仕上)

(5) 事業の規模

製品出荷額 5.2億円

	正社員	臨時員	派遣社員	計
従業員	22名	1名	1名	24名

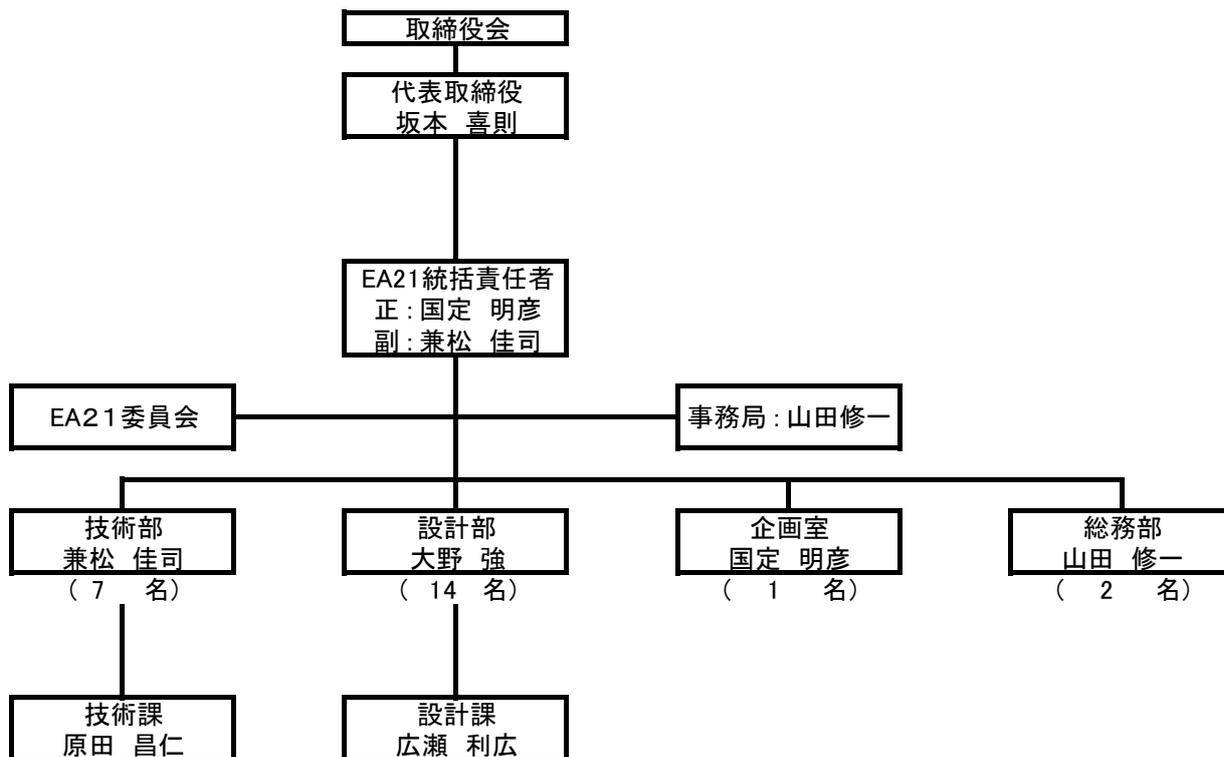
敷地面積 1,600.55㎡ 延床面積 475.64㎡

(6) 事業年度 6月～5月(活動年度は4月～3月)

(7) 会社沿革

昭和21年3月 愛知紡織(株)として創業  
昭和36年9月 豊島グループに参入  
昭和44年6月 トヨシマ電機(株)と社名変更  
平成19年12月 豊島グループ内にて組織再編を実施  
新設分割により、新規にトヨシマ電機(株)を設立  
平成21年10月 新社屋完成  
平成22年6月 ISOアクション21認証・登録  
平成29年2月 JISQ9100認証・登録

(8) 実施体制と役割



部署	責任者	役割
代表取締役	坂本 喜則	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境方針策定及び環境目標の決定及び見直しを行う。</li> <li>環境経営システムの構築及び結果の評価を行う。</li> <li>環境経営システムに有用な人材・設備・資金を確保し、効果的な運用と適切な維持管理を指示する。</li> </ul>
環境管理責任者	国定 明彦	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境経営システムの遂行をする。</li> <li>環境関連のコンプライアンスの監視を行う。</li> </ul>
技術部	兼松 佳司	<ul style="list-style-type: none"> <li>技術部の日常業務に於ける産業廃棄物の処理方法の検証及び、環境面での顧客への提案に関する活動を推進する。</li> <li>建設業者向けガイドラインへの適用</li> </ul>
設計部	大野 強	<ul style="list-style-type: none"> <li>リサイクル品の積極的採用</li> <li>省電力の推進</li> </ul>
総務部	山田 修一	<ul style="list-style-type: none"> <li>部内の廃棄物の管理はもとより、社内全体の設備・システムを管理し、環境保全に関する活動を推進する。</li> </ul>
EA21委員会		<ul style="list-style-type: none"> <li>社長、環境管理責任者(正・副)、事務局、各部課長以上で構成し、随時の会合、活動の進捗及び計画・結果の協議を行う。</li> </ul>
事務局	山田 修一	<ul style="list-style-type: none"> <li>社長、環境管理責任者を補佐し、運用面全般の統括を行う。</li> <li>活動における事務処理を担当する。</li> </ul>

## <2> 対象範囲、レポートの対象期間及び発行日

### (1) 認証・登録範囲

登録組織名 トヨシマ電機株式会社  
活動 電子部品の実装設計  
クリーンブース、クリーンルームの設計・施工

### 1. 技術部事業紹介

#### クリーンブース



#### ・アルミフレーム式クリーンブースの特長

- ①アルミフレームの結合は・Tロック・ボルト・エンドキャップを使ってフレーム内部で結合させるため、簡単かつ外観に優れています。
- ②さらにコーナー部にコーナーステー(2ピース)を使い、強固な組立剛性を確保しています。
- ③メーカー直送により、短納期(約2週間)の対応が可能です。
- ④FFUは強弱切替により、省エネ運転も可能です。照明はLED仕様もあります。

#### クリーンルーム

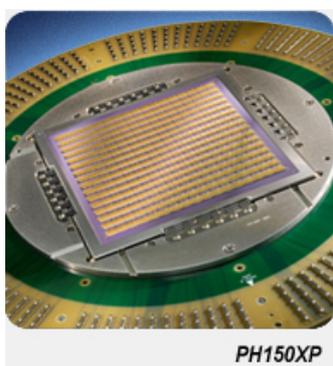


#### ・ライン式クリーンルームの特長

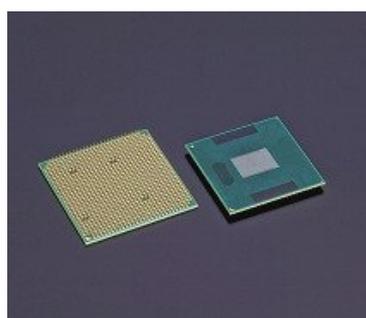
- ①少ない換気回数で清浄度を達成出来る
- ②従来方式と較べて清浄度・温湿度のバラツキが少ない
- ③天井下にサブライダクトを設置する為、天井の低い建物にもクリーンルームが設置可能
- ④クリーンルーム設置後のグレードアップ及び移設も対応可能
- ⑤ユニット式の為、現地工事期間を大幅に短縮出来る
- ⑥室内ユニットのため、メンテナンスが容易
- ⑦空調機をインバーター仕様にする事により、省エネ運転も可能。照明はLED対応可能です。

## 2. 設計部事業紹介

高品質・短納期を目指し、顧客の用途に合わせたCAD設計を行います。



半導体シリコンウエハーの検査に使用される  
アルミナセラミックの多層基板のCAD設計



MPUなどの高密度多ピン対応の  
オーガニックビルドアップ基板のCAD設計

### (2)レポートの対象期間及び発行日

対象期間	2019年4月1日から2020年3月31日まで
発行日	2020年5月29日

### 基本理念

トヨシマ電機株式会社は、社会の一員として自然環境の大切さを認識し、此処に行動指針を策定し環境保全に全社で取り組みます。

### 環境行動指針

当社は電子部品設計及びクリーン環境(クリーンブース・クリーンルーム・窒素)関連機器の製造・販売の事業活動において、循環型社会を目指し自然環境に配慮し、その目標達成の為、全社一丸となって取り組みます。

- 1 事業活動において、CO2の排出削減(省エネルギー)に取り組みます。
- 2 資源を大切にして、リサイクルとゴミの削減及び水資源投入量の低減に努力します。
- 3 化学物質の使用量の削減・代替努め、環境汚染の防止に努力します。
- 4 環境関連法令を遵守します。
- 5 全社員に環境問題を啓蒙し、環境方針の実行に継続的に取り組みます。
- 6 クリーン設備や環境関連商材、サービスに関する環境配慮に注力し、当該商材の提供により、社外での環境貢献に努めます。
- 7 グリーン購入に関し、計画的且つ効果的な取組を行います。
- 8 上記1～7の項目に関し、「質の向上」に努めます。

制定日 2010年4月1日

改定日 2019年4月1日

トヨシマ電機株式会社  
代表取締役 坂本喜則

## <4>環境目標

### 環境負荷項目と削減目標

事業活動の変化及び事務所の移転などもあり、2010年の活動開始時に設定していた目標値は現状及び今後の実態を反映するにはやや無理な状況となった。そこで2019年度以降は、目標値をより実態を反映させたものとするべく、「直近過去3年間の実績平均値に対し年率1%削減」を継続、に変更した。また「2019年から2021年度の中期目標は3年間で3%の削減」とした。次回の2022年度以降の中期目標は2019年～2021年度の実績値の結果を見て設定する予定。

#### ◇2019年度から2021年度までの目標値

環境方針 負荷項目		基準	第13期	第14期	第15期
		2016年～2018年度 の平均	2019年度	2020年度	2021年度
CO2 排出量	電力使用量	52,860	-1%	-2%	-3%
	kWh		52,333	51,803	51,274
	kg-CO2	25,370	25,120	24,863	24,609
	ガソリン+軽油使用量	4,530	-1%	-2%	-3%
ℓ	4,485		4,439	4,394	
	kg-CO2	10,500	10,399	10,290	10,185
廃棄物 排出量	廃プラスチック m3	36	-1%	-2%	-3%
			35.4	35.3	34.9
OA用紙購入量kg		755	-1%	-2%	-3%
			747	740	732
総排水量m3		159	-1%	-2%	-3%
			157	156	154
社会貢献項目		1件以上	1件以上	1件以上	1件以上
太陽光発電量	kWh	24,000～25,000	同左(実績値の把握と記録)		
	CO2	11,500～12,000	同左(実績値の把握と記録)		

廃プラスチックの重量換算は0.35t/m3

一般廃棄物は段ボール(リサイクル)とその他紙類。少量の為実績値把握は行いが削減目標は設定しない。

電力のCO2排出係数は中部電力2016年度調整後排出係数0.480kg-CO2/kWh

#### ◇環境効率指標・目標(ポイント=CO2排出総量/売上高百万円)

負荷項目	単位	2019年度目標	2020年度目標
電力使用量	CO2排出総量: kg-CO2	25,120	24,863
	ポイント: kg-CO2/百万円	49.25	48.75
ガソリン+軽油使用量	CO2排出総量: kg-CO2	10,399	10,290
	ポイント: kg-CO2/百万円	20.39	20.18

売上高は  
2019年度予想  
510百万円  
で試算

## <5> 環境目標に対する実績

環境方針 負荷項目		基準	第13期		評価 増減量
		2016年～2018年度 の平均	2019年度 目標	2019年度 実績	
CO2 排出量	電力使用量		-1%	-8%	○
	kWh	52,860	52,333	48,649	-4,211
	kg-CO2	25,370	25,120	23,449	-1,671
	ポイントkg-CO2/百万円	49.75	49.25	45.01	○
	ガソリン+軽油使用量		-1%	+29%	×
	ℓ	4,530	4,485	5,849	1,319
	kg-CO2	10,500	10,399	13,638	3,239
	ポイントkg-CO2/百万円	20.59	20.39	26.18	×
CO2総排出量 kg-CO2		35,870	35,519	37,087	1,217
廃棄物 排出量	廃プラスチック		-1%	+18%	×
	m3	36	35.4	42.5	6.5
OA用紙購入量kg			-1%	-7%	○
		755	747	705	-50
総排水量m3			-1%	-16%	○
		159	157	132	-27
社会貢献項目		1件以上	1件以上	0	×
太陽光発電量	kWh	24,000～25,000	同左	24,345	継続把握と 記録
	CO2	11,500～12,000		11,686	

廃プラスチックの重量換算は0.35t/m3

一般廃棄物は段ボール(リサイクル)とその他紙類。少量の為実績値把握は行うが削減目標は設定しない。

電力のCO2排出係数は中部電力2016年度調整後排出係数0.480kg-CO2/kWh

<6> 環境活動計画の取組結果と評価、次年度の取組内容

2019年度環境活動計画と取組結果と評価

環境方針	第13期・2019年度取組手段	主な担当部署	達成度 の評価				コメント	次年度の取組
			4～6月	7～9月	10～12月	1～3月		
CO2排出量の削減 (電気使用量の削減)	1.昼休等、不要場所の消灯	総務部 設計部	○	○	○	○	・総量目標、環境効率性指標に基づく目標とも「達成」 電気使用量についてはソフト勤務体制の一部改訂により 空調機の稼働時間が減少した為に削減出来た。 また、社屋街頭をLEDに交換。 給茶器にタイマーを設定し、7時～22時迄の稼働とした。	継続
	2.給茶機のエコ運転(勤務体系、季節等)		○	○	○	○		継続
	3.器具の監視と定期交換・清掃		△	△	△	△		継続
	4.ガラス面に断熱材(フィルム、塗料)施工の検討		○	○	×	×		継続
	5.空調は必要な区域・時間限定		○	○	○	○		継続
	6.空調機フィルターの定期清掃・交換		○	○	○	○		継続
CO2排出量の削減 (ガソリン使用量の削減)	1.急発進・急加速・急停止の禁止	技術部	○	○	○	○	・総量目標、環境効率性指標に基づく目標とも「未達成」 本年度も、遠方の顧客が多く、長期にわたる工事案件が多かった為、 ガソリンの使用量が増えました。 また、年末に技術部が2名の増員を行ったため車の使用頻度も上がりました。	継続
	2.暖機運転・アイドリングストップ		○	○	○	○		継続
	3.「エコドライブ」に心がけよう」等車内でのPR		○	○	○	○		継続
	4.エコカー等への切替検討		○	○	○	○		継続
	5.公共交通機関の利用		○	○	○	○		継続
	6.自転車通勤の奨励		○	○	○	○		継続
廃棄物排出量の削減	1.顧客にて発生する産廃削減の検討	総務部 技術部 設計部	△	△	△	△	・総量目標、環境効率性指標に基づく目標とも「未達成」 クリーンブースの工事案件が増え、それに伴い梱包材等の廃棄物が増えました。 段ボール箱は産廃業者に依頼せず、リサイクル処理と致しました。	継続
	2.納品時の梱包・包装の削減		△	△	△	△		継続
	3.マイ箸、マイカップ、マイ水筒運動		△	△	△	△		継続
	4.CO2削減値の把握と展開		△	△	△	△		継続
	5.分別による削減方法の検討		○	○	○	○		継続
	6.ゴミの圧縮・減量化		×	×	×	×		継続
水使用量の削減	1.節水ツール等の検討	総務部	—	—	—	—	・総量目標「達成」 各自の日々の取組により削減目標達成となった。	廃止
	2.節水の呼びかけ		○	○	○	○		継続
	3.清掃回数減少→汚さない工夫		○	○	○	×		継続
OA紙購入量の削減	1.印刷物の必要最低限量の考慮	総務部 設計部	○	○	○	○	・総量目標「達成」 各自の日々の取組により削減目標達成となった。	継続
	2.社内配布・PDF&メールの増加		○	○	○	○		継続
	3.ミスコピー防止の為に設定リセット		○	○	○	○		継続
	4.両面・集約機能を利用したコピー、印刷		○	○	○	○		継続
	5.裏紙コピー、使用済封筒等の利用		○	○	○	○		継続
化学物質の監視	1.新規購買品にPRTR法該当の化学物質が含まれていない事の確認	技術部	○	○	○	○	購入実績無し	継続

環境方針	第13期・2019年度取組手段	主な担当部署	達成度 の評価				コメント	次年度の取組
			4～6月	7～9月	10～12月	1～3月		
社会貢献・対顧客活動 など (環境関連法規の確認 含む)	1.環境関連法令の改正、新規該当法令の確認	総務部 技術部 設計部	○	○	○	○	2020年5月20日確認 HPの継続的なメンテナンス・更新を行い、検索エンジンで上位表示 されるように致しました。クリーンブースではホームページからの問い合わせ、見積り 依頼が受注の80%で推移している。 今後は商社等を中心に営業も展開する。  構外の除草は定期的実施出来た。	継続
	2.環境配慮型商品の積極的PR		○	○	○	○		継続
	3.HPの見直し、改定		○	○	○	○		継続
	4.取引先での環境面取組方法の吸収		×	×	×	×		継続
	5.環境関連新技術の検討		×	×	×	×		継続
	6.特定FONの回収、適正処理(顧客対応)		○	○	○	○		継続
	7.環境負荷低減のための情報提供		○	○	○	○		継続
	8.構外の除草、清掃		○	○	○	○		継続
総合	1.取組活動において他社の事例を参考にする	総務部	×	×	×	×	環境負荷低減に繋がる勉強会を開催出来なかった。	継続

**<7>. 環境関連法規制等取りまとめ表（遵守評価記録）**

毎年定期的な遵守評価の前に制定、改正の確認を行う。普段から規制の動きには注意を払う。

登録簿更新日：2019年4月16日

遵守の評価日：2020年5月20日

保管：事務局

伝達：関連部署

	承認	作成
登録		山田
	環境管理責任者	事務局
遵守評価		山田
	環境管理責任者	事務局

遵守評価の欄：確認した記録など記入 判定欄：○×（×の場合は問題点は正票により解決を図る）

法規制等の名称	該当する要求事項 (対応すべき事項)	関連条例等による規制	該当する設備・項目	点検・測定頻度、実施時期	届出・報告・資格				担当部署	遵守評価			
					許可	届出報告	資格	届出先		証拠	判定	判定者	
廃棄物処理法	・委託基準：一廃収集業者の許可の確認	廃棄物処理法第6条	一般廃棄物(紙くず、繊維くず、木くず、生ごみなど)	・1回/年					総務	契約書・許可証	○	山田	
	・委託基準：産廃収集運搬・処理業者の許可の確認、契約		産業廃棄物(金属類・廃プラスチック類・廃ガラス・廃油・木製パレット)	・契約書/許可証につき1回/年					総務	契約書・許可証	○	山田	
	・保管、収集・運搬の基準 部署毎に保管する 収集・運搬・月2回 第1、第3水曜日 技術部等臨時の場合別途	2011年10月より・月2回に	処理委託 (大和エネルギー)									○	山田
	・マニフェスト交付 電子マニフェスト	廃棄物処理法第11～13条				○		知事	総務	マニフェスト	○	山田	
	・産業廃棄物管理票交付等状況報告書の提出	毎年6月末迄に提出			6月初旬提出予定		○		知事	報告書	○	山田	
消防法	・受注工事に消防設備がある場合	消防用設備(第31条の3関係)	顧客	新設・変更時(事前・事後)		○	○	該当市町村の消防本部	技術	新設(有・無)	○	山田	
	・社内消防設備(消火器具、非常警報器具及び配線)	消防用設備(第31条の3関係)／年1回点検・3年に1回届出	社内 点検委託(絹庄)	2020年2月27日実施	業者委託		○	小牧市消防本部	総務	点検報告書	○	山田	
高圧ガス保管法	高圧ガスの取扱、事前届出、管理	高圧ガス保管法第四章	使用機会無し						技術	工事届	○	山田	
フロン排出抑制法	・フロン類の適切な処理 ・回収・破壊の工程の確認 ・簡易点検、定期点検の実施	フロン排出抑制法	空調機設置・修理時 委託(破壊証明書提出)	廃棄時 修理時					技術	破壊証明書	○	山田	
下水道法	排水の管理(生活排水のみ)	下水道法第12条	下水道	化学物質を使用の場合事前検討					総務 技術	生活排水のみ	○	山田	
化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)	・性状及び取扱いに関する情報(SDS)の提供 ・指定化学物質の管理(非使用、基準遵守等)	化管法第14条／施行令	現状無し						技術	SDS提供状況	○	山田	
グリーン購入法	・環境物品等の調達に関する基本方針の変更 ・環境マネジメントシステムの運用	グリーン購入法第5条							技術 設計	カタログ等	○	山田	

・環境関連法規への違反はありません。尚、関係当局よりの違反等の指摘は、過去3年間ありません。

## <8> 代表者による全体評価と見直し

2019年4月～2020年3月については、太陽光発電の合計で24,345Kw。

月平均で2,029Kwの発電がありました。

年間で、11,686kgのCO2の排出を低減できました。(売電)

昨年度より318kW減少しました。

CO2排出量について、電気使用量は総量、売上当たりのポイントとも目標を達成しました。

記録的な暖冬に加え、設計部のシフト勤務変更による稼働時間の減少が電気使用量削減に貢献しました。また、給茶器にタイマー設定を行い夜間のサービスを停止しました。

ガソリン使用量は、本年度も遠方の顧客が多く、長期にわたる工事案件が多かったのと

2名増員により自動車の稼働率が上がり、総量、ポイント共未達成となりました。

廃棄物に関しては、保存期間を超過した帳簿・書類の整理をまとめて実施した為、一般廃棄物(その他の紙)の処分量が増加しました。産業廃棄物(廃プラスチック)についても、今期はクリーンブースの工事案件が増えた為、それに伴う梱包材等の廃棄物が増加した為、総量、ポイント共未達成となりました。

総排水量及び、OA用紙購入量削減については、各自日々の取組により目標達成となりました。

また、本社屋のLED照明への切り替えと窓ガラスへの断熱フィルム施工については、今期導入を見送りましたが、継続検討していきます。

クリーンな環境を提案する当社にとって、グリーン購入の推進は責務であり、環境に配慮した製品の開発・購入を積極的に進めます。

今後も社内でのコミュニケーション、検討会を遡増させ、業績の向上と環境活動の

活性化の両立を目指し、全社一丸となって推進して参ります。

2020年5月29日

トヨシマ電機株式会社  
代表取締役 坂本喜則